

平成29年度日本水産学会 中国・四国支部例会 プログラム

日程 平成29年12月2日(土)13:00～12月3日(日)12:00
(受付開始 12:00)

場所

オルガビル4階会議室

〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7オルガビル

日程

12月2日(土)

11:30～12:30 幹事会

12:00～ 受付開始

13:00～15:30 一般口頭発表)

15:40～16:30 一般ポスター発表・高校生ポスター発表

16:40～17:00 総会・表彰式

18:00～20:00 懇親会

12月3日(日)

8:30～受付開始

9:00～12:00 ミニシンポジウム

13:00～13:05 開会挨拶

13:05～13:17 OA1 親魚の年齢が仔魚の生物特性に及ぼす影響
◎後藤直登(広大生物生産)・米田道夫・津崎龍雄(水産機構瀬水研)・入路光雄
(水産機構中央水研)・富山毅(広大院生物圏科)

13:17～13:29 OA2 クロダイの年齢と成長に関する研究
◎山下裕太郎・津行篤士・海野徹也(広大院生物圏科)

13:29～13:41 OA3 シロギスの産卵期が長期にわたる要因 について
◎中根康介・南卓志(福山大生命工)

13:41～13:53 OA4 潜在的な被食リスクの異なる条件における大型海藻2種に対するアイゴ稚魚の採餌選択性
○野田幹雄・岡本訓明(水産機構水大校)

13:53～14:05 OA5 受精状況がキンギョの鰾形成と形態異常発現に及ぼす影響
◎中優希・山本敏・橋野俊太郎・有瀧真人(福山大生命工)

14:05～14:17 OA6 鰾の開腔操作によるキンギョの体型変化(Ⅱ)
◎山本敏・中優希・橋野俊太郎・有瀧真人(福山大生命工)

14:17～14:30 休憩

14:30～14:42 OA7 ブラジル産アルテミアノープリウスの給餌がコウライアカシタビラメの形態形成に与える影響
◎高橋智宏・細越嗟千・大古一太(福山大学生命工)・草加耕司(岡山水研)・有瀧真人
(福山大学生命工)

14:42～14:54 OA8 コウライアカシタビラメの着底状況と変態後の形態
◎大古一太・高橋智宏・細越嗟千・(福山大生命工)・草加耕司(岡山水研)・有瀧真人
(福山大生命工)

14:54～15:06 OA9 コウライアカシタビラメの産卵状況と卵質評価
◎細越嗟千・高橋智宏・大古一太(福山大学生命工)・草加耕司(岡山水研)・有瀧真人
(福山大生命工)

15:06～15:18 OA10 シロギスの人工種苗生産における課題:形態異常と共喰いについて
◎藤川稔晃・隈村僚太・末石芳幸・有瀧真人(福山大生命工)

15:18～15:30 OA11 クロチョウガイ酸素摂取に及ぼす低酸素の影響
○半田岳志・荒木晶・山元憲一(水産機構水大校)

◎: 35歳以下の表彰審査対象者

- 13:05～13:17 OB1 礫相当の粒径における見かけ密度と底質硬度との関係
○梶原直人(水研七瀬水研)
- 13:17～13:29 OB2 鉄鋼スラグ底質改善材を用いた海域環境改善技術
○宮田康人(JFEスチール)・山本民次(広大院生物圏科)・ト部 憲登(福山市環境経済局)
- 13:29～13:41 OB3 硝酸塩センサーを用いた栄養塩の動態把握とリ養殖におけるデータ活用
○山下泰司(岡山水研)・高木秀蔵・渡辺新(岡山県庁)
- 13:41～13:53 OB4 *Gambierdiscus*属新奇種に特異的な定量 PCR 法の開発ならびに本邦沿岸域におけるその発生状況の検討
◎谷井勇太・三村克哉・橋本佳奈・船木紘・西村朋宏(高知大農)・田中幸記(高知大海洋研)・柳田一平(NPO法人INO)・山口晴生・足立真佐雄(高知大農)
- 13:53～14:05 OB5 有害ラフィド藻 *Chattonella marina*の光応答増殖
◎鶴森友太郎(高知大院)・山口晴生・足立真佐雄(高知大農)
- 14:05～14:17 OB6 高知県二級河川鏡川で2017年に発生したアユの異型細胞性鰓病の疫学調査
◎加藤佑亮・山下はづき(高知大農)・門野真弥(高知大院農)・大崎靖夫・片岡榮彦(鏡川漁協)・今城雅之(高知大農)
- 14:17～14:30 休憩
- 14:30～14:42 OB7 高知県二級河川鏡川のダム上流におけるアユ細菌性冷水病の疫学調査研究
◎山下はづき・加藤佑亮・(高知大農)・門野真弥(高知大院農)・長岩理央・占部敦史(高知県内水面漁業セ)・大崎靖夫・片岡榮彦(鏡川漁協)・今城雅之(高知大農)
- 14:42～14:54 OB8 香川県小豆島のアサリ *Ruditapes philippinarum*を対象にしたパーキンサス属原虫の疫学調査
◎福嶋淳・加藤佑亮(高知大農)・門野真弥(高知大院農)・佐藤周之・今城雅之(高知大農)
- 14:54～15:06 OB9 愛媛県西条市馬淵川・サラサラ川水系におけるリアルタイムPCR法を用いたコイヘルペスウイルス感染拡大の実態調査
◎門野真弥(高知大院農)・畑啓生(愛媛大理)・仲山慶(愛媛大沿岸研セ)・北村真一(愛媛大沿岸研セ)・吉藤晃太(高知大農)・山本貴仁(西条自然学校)・今城雅之(高知大農)
- 15:06～15:18 OB10 オリーブ油添加ホルマリン不活化 *Aeromonas veronii* 菌体を接種したニシキゴイの腹腔内浸出細胞の特性
○河原栄二郎・井本 卓(福山大内海研)
- 15:18～15:30 OB11 マダイ筋原線維結合型セリンプロテアーゼの基質特異性
○大久保誠・谷口成紀・近藤昌和・前田俊道(水産機構水大校)

◎: 35歳以下の表彰審査対象者

- P1 餌料の制限がイカナゴの成長と再生産に及ぼす影響
◎葛原裕恒(広大院生物圏科)・米田道夫・津崎龍雄・高橋正知・河野悌昌(水産機構瀬研)・富山毅(広大院生物圏科)
- P2 馴致水温がマコガレイ稚魚の高温耐性および至適水温に及ぼす影響
◎櫻井玄人(広大生物生産)・高橋聡史・吉田侑生・富山毅(広大院生物圏科)
- P3 リン循環解析による中海の環境改善に関する研究
◎森川 豪・山本民次(広大院生物圏科)・中本健二(中国電力)
- P4 人工藻場に形成される生態系の食物連鎖構造に関する研究
◎米田賢史・山本民次(広大院生物圏科)・宮田康人(JFEスチール)・杉本憲司(宇部工専)
- P5 三津湾に設置した間伐材魚礁の費用便益分析に関する研究
◎中村 晴香・山本 民次・海野 徹也・Jamaluddin Fitrah Alam(広大院生物圏科)・中原 真哉(広島県環境保健協会)
- P6 施肥によるノリの色落ち回復に関する研究
◎山口晴子1・山本民次1・平尾優介1・Teguh Nur Rohman(広大院生物圏科)・三上 裕・本多威暁(松田産業)
- P7 エビ籠の入口サイズが外来種アメリカザリガニの捕獲個体数に及ぼす影響
◎福井大希・中田和義(岡山大・院・環境生命)
- P8 カンパチ幼魚の飢餓ストレス試験
◎森下菜穂・安藤仁・東福拓磨・山下倫明・近藤昌和(水産機構水大校)
- P9 エソ類内臓からのセレノネイン濃縮物の試作
○山下倫明・安藤仁・清水溪介・東福拓磨・森下菜穂(水産機構水大校)・山下由美子(水産機構中央水研)
- P10 エソ未利用部位のエキス抽出における高圧前処理について
○谷口成紀・大久保誠・中西湧耶・岩野周平・前田俊道(水産機構水大校)
- P11 マガキ体液の二酸化炭素分圧の算出
○半田岳志・荒木晶・山元憲一(水大校)
- P12 西日本 3県で新たにチュウゴクスジエビを確認
○今井 正(水産機構瀬水研)・中曾雅之(クロレラ工業)・張 成年(水産機構中央水研)・野原健司・大貫貴清(東海大海洋)

◎: 35歳以下の表彰審査対象者

- HP1 アマモ場造成に関する諸問題の解明 —アマモ種子初期発芽機構の解明—
大井夢美・竹内紗那・杉田理紗・二貝泉音・西山茉優・土井啓明・福田富男
(岡山県立備前緑陽高等学校)
- HP2 アマモ場造成に関する諸問題の解明 —アマモ場に生息する生物群集—
能勢建・小山巧真・竹林涼太郎・中村将規・藤本優史・土井啓明・福田富男
(岡山県立備前緑陽高等学校)
- HP3 アマモ場造成に関する諸問題の解明 —アマモ場の存在が漁業に与える影響の考察—
岡野直央・佐々木惇・平垣伊吹・酒井啓吾・谷本葉月・土井啓明・福田富男
(岡山県立備前緑陽高等学校)
- HP4 海洋資源調査報告 ～日本海のひみつ！ヒレグロの正体に迫る～
佐藤洋平・中村海渡・牧之瀬出海 (兵庫県立香住高等学校)
- HP5 航海船舶コースの取組について
内山航輝・尾崎秀典・得野海(京都府立海洋高等学校)

西日本に出現した水生外来生物等の現状と問題

日時・場所： 2017年12月3日(日)9:00-12:00
オルガビル4階会議室 〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7オルガビル
コンビーナー： 斉藤英俊, 富山 毅, 山本民次(広大院生物圏科)

プログラム

9:00-9:05 開会挨拶 山本民次(日本水産学会中国・四国支部長)

座長 関 伸吾(高知大農)

9:05-9:35 外来釣り餌動物チュウゴクスジエビの国内への侵入状況および流通に及ぼす新輸入防疫
制度の影響 斉藤英俊(広大院生物圏)

9:35-10:05 外来種アメリカザリガニが在来生態系に与える影響と有効な駆除手法
中田和義(岡山大院環境生命)

10:05-10:35 外来淡水魚類に関わる諸問題とその利用
河合幸一郎(広大院生物圏)

10:35-10:45 休憩

座長 野田幹雄(水産機構水大校)

10:45-11:15 徳島県沿岸におけるアイゴの大量出現とその影響
棚田教生(徳島水研)・和田隆史(徳島県農林水産部)

11:15-11:45 周防灘におけるナルトビエイの駆除・調査の実施状況と今後の課題
和西昭仁(山口水研セ)・野副 滉(福岡水海技セ)・白樫 真(大分水研)・斎藤克弥(JAFIC)

11:45-12:00 総合討論 山本民次(広大院生物圏科)

閉会挨拶 山本民次(日本水産学会中国・四国支部長)

開催趣旨：2000年以降、海洋や河川生態系に及ぼす人為的な影響が顕在化し、水産資源の安定供給が危ぶまれている。その要因として国内外から外来生物が意図的・非意図的に移入することや、環境変動とくに温暖化による南方系魚類の来遊等が挙げられる。将来的に持続可能な水産資源の供給を実現していくためには、水域生態系の現状を理解した上でそれらの生物に対する対策を立案する必要がある。本シンポジウムは、西日本に出現した水生外来生物等の出現の現状を紹介するとともに、水産資源の持続的供給あるいは在来生態系保全の観点からその問題点や対策を議論することを目的とする。